

国語科調査研究報告書

書名 観点	<p style="text-align: center;">東京書籍 あたらしい国語 新しい国語</p> <p style="text-align: center;">1 3 1 2 3 1 3 3 1 4 3 1 5 3 1 6 3 1</p> <p style="text-align: center;">1 3 2 2 3 2 3 3 2 4 3 2</p>
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、おもちゃの作り方を説明する活動などを取り上げており、相手に応じ、身近なことなどについて事柄の順序を考えながら話すことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、学校行事の案内状を書く活動などを取り上げており、相手や目的に応じて、調べたことが伝わるように段落相互の関係などに注意して書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、関連のある複数の本を読んで、友達に推薦する活動などを取り上げており、目的や意図に応じて、内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、リズムを感じながら百人一首を音読して、かるた遊びをする活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、教材末に学習のポイントとなる「言葉の力」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「人ぶつがしたことのじゅんじょをかんがえる」、第4学年では「つながりのある物語を読む」、第6学年では「問題を解決するために話し合う」などが取り扱われている。
内容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、第1学年で発見したことを友達に書いて伝える活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で司会の進行に沿って話し合う活動、第4学年で自分の役割を考えて話し合う活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は4教材、「書くこと」は9教材、「読むこと」は15教材であり、総ページ数は350ページで前回より約22パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の好きなものについてクイズを出し合う活動や行事について案内状を出す活動を取り上げるなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ マーク「関係のあるところ」で関連する内容のページを示す（全学年）など、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末に「『言葉の力』をかつようしよう」（第～6学年）を掲載し、学習を振り返ることができるようすにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	学校図書 みんなと学ぶ 小学校国語 1 3 3 2 4 4 3 3 3 4 3 3 5 3 3 6 3 3 1 3 4 2 3 4 3 3 4 4 3 4 5 3 4 6 3 4
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、友達に知らせたいことを紹介する活動などを取り上げており、相手に応じて、身近なことについて事柄の順序を考えて話すことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、四コママンガの内容を基に物語を書く活動などを取り上げており、相手や目的に応じて、段落相互の関係などに注意しながら書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、伝記を読んでその人物の生き方を知り自分の生き方について考える活動などを取り上げており、目的に応じて、内容や要旨をとらえて読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、百人一首の短歌を音読して思い浮かべた風景について話し合う活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、各学年の教材や巻末の資料編に「国語のカギ」「授業で使う言葉」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「だんらくと主語」、第4学年では「物語の最後の一文」、第6学年では「結果と考察」などが取り扱われている。
内容 の構 成排 成列・ 分量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、第1学年で「わたしのたからもの」を友達や先生に話す活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で見てきたことを基に中心に気を付けて書く活動、第4学年で見てきたことの内容をまとめて報告文を書く活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は4教材、「書くこと」は6教材、「読むこと」は21教材であり、総ページ数は292ページで前回より約12パーセント増となっている。
使用 上 の配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ学習の訪問先に依頼状と礼状を書く活動（第4学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「授業で使う言葉」（全学年）で用語を調べることができるようにするなど、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末に「保護者の方へ」を掲載し、学習内容や身に付けることを保護者に知らせ家庭学習につなげていけるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	三省堂 小学生の国語 小学生の国語 学びを広げる 1 3 5 2 3 5 3 3 5 4 3 5 5 3 5 6 3 5 1 3 6 2 3 6 3 3 6 4 3 6 5 3 6 6 3 6
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、コンテストに出す作品をグループで話し合っ て決める活動などを取り上げており、互いの話を聞き、話題に沿って話し合うことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、クラスのことを調べて報告する文章を書く活動などを取り上げており、調べたことが伝わるように段落相互の関係に注意して書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、図とそれを説明している部分を比べながら読む活動などを取り上げており、目的に応じて、文章の内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、第3,4学年において故事成語の意味を調べて登場人物や場面を想像して物語を書く活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、2年以降の教材に「覚えておきましょう」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「むかし話を楽しむ」、第4学年では「人物像をとらえる」、第6学年では「心情の変化を考える」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、第1学年で「わたしのすきなもの」を友達や先生に話す活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で心の動きについてまとまりに気を付けて書く活動、第4学年でお気に入りの場所について中心に気を付けて書く活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は5教材、「書くこと」は10教材、「読むこと」は14教材であり、総ページ数は254ページで、前回より約18パーセント減となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事に来てほしい人に案内状を書く活動（第3学年）を通して、相手意識や目的意識を明確にするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 別冊「学びを広げる」における「言葉のポケット」に学習のポイントを示す（第2～6学年）など、児童が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○ 教科書「小学生の国語」と資料集「学びを広げる」の2分冊構成にして個に応じた学習に対応できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 ひろがる言葉小学国語 1 3 7 2 3 7 3 3 7 4 3 7 5 3 7 6 3 7 1 3 8 2 3 8 3 3 8 4 3 8 5 3 8 6 3 8
取扱内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、グループで話し合って考えを一つにまとめる活動などを取り上げており、互いの話を聞き、話題に沿って話し合うことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、図鑑で調べた生き物について説明する文章を書く活動などを取り上げており、段落相互の関係などに注意して書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、印象に残った作品を推薦する「図書推薦会」を開く活動などを取り上げており、目的に応じて、内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、ことわざ・慣用句などの意味を調べてカードにまとめる活動などを取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、コラム「ここが大事」において学習のポイントを示し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「くりかえしのあるお話を読む」、第4学年では「経験と結びつけて読む」、第6学年では「すぐれた表現を読む」などが取り扱われている。
内容の構成・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、夏休みの絵日記を見ながら質問し合う活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で見学したことの中心をはっきりとさせて書く活動、第4学年で構成を工夫して報告文を書く活動を取り扱うなど、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は4教材、「書くこと」は8教材、「読むこと」は16教材であり、総ページ数は296ページで、前回より約7パーセント増となっている。
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最近の出来事を他の学年の人たちに伝える学級新聞を作る活動などを取り上げ、相手意識を明確にし、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「～しよう（てびき）」に学習の進め方や「ここが大事」に学習のポイントが示されるなど、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○ 巻末に各教材の指導事項や学習に必要な用語などをまとめた「この本で学ぶこと」を掲載し、個に応じた学習に役立てるなど使用上の便宜が図られている。
その他	

国語科調査研究報告書

書名 観点	<p style="text-align: center;">光村図書 国語</p> <p style="text-align: center;">1 3 9 2 3 9 3 3 9 4 3 9 5 3 9 6 3 9</p> <p style="text-align: center;">1 4 0 2 4 0 3 4 0 4 4 0</p>
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話すこと・聞くことについては、例えば第1,2学年においては、身近な物についてクイズを出し合う活動などを取り上げており、相手に応じて、事柄の順序を考えながら話すことができるようになっている。 ○ 書くことについては、例えば第3,4学年においては、生活の中の疑問について本で調べて報告する文章を書く活動を取り上げており、相手や目的に応じて、段落相互の関係を考え書くことができるようになっている。 ○ 読むことについては、例えば第5,6学年においては、新聞を読み、編集の仕方や記事の書き方などを考える活動などを取り上げており、目的に応じて、内容や要旨をとらえながら読むことができるようになっている。 ○ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、例えば第3,4学年においては、定型のリズムを感じ取りながら短歌を音読したり暗唱したりする活動を取り上げており、伝統的な言語文化に親しむ態度が育成できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、学習のポイントを示す「たいせつ」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができるように工夫されている。例えば、第2学年では「じんぶつと自分をくらべて読む」、第4学年では「特別な言葉に着目する」、第6学年では「筆者の考えに対して、自分の考えをもつために」などが取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、第1学年で「ともだちに、きいてみよう」で友達と話し合う活動を取り扱うなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。 ○ 内容の排列については、第3学年で伝えたいことの内容を意識して説明文を書く活動、第4学年で内容の中心を明らかにして報告文を書く活動を取り扱うなど2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第2学年で「話すこと・聞くこと」は5教材、「書くこと」は7教材、「読むこと」は15教材であり、総ページ数は276ページで、前回より約1パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読むことの学習と日常生活との関連を示した「この本、読もう」を掲載する（全学年）など、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。 ○ 「学習に用いる言葉」で用語を調べることができるようにする（第3～6学年）など、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○ 巻末の付録「学習を広げよう」に補充的、発展的な学習に活用できる資料を掲載する（第2～6学年）など、使用上の便宜が図られている。
その他	